

京都府リハ支援センター 活動報告

センター長 近藤 正樹

京都府におけるリハビリテーション施策は、京都府リハビリテーション支援センター、二次医療圏ごとに設置している地域リハビリテーション支援センター、府保健所、地域包括ケア推進機構等が一体となって、府内各地域におけるリハビリテーション体制の支援・強化に取り組んでいます。

平成23年(2011年)度からの「総合リハビリテーション推進プラン」の事業を総括し、令和元年(2019年)度に策定した「京都府総合リハビリテーション連携指針」の事業化を進めてきました。従来の各圏域の地域リハビリテーション・コーディネート事業とあわせ、京都府リハビリテーション三療法士会協議会と協力してリハビリテーション専門職を派遣する体制づくりを行っています。また、人材育成のために、リハビリテーション専門職キャリアアップ研修を実施しています。新型コロナ禍のため制限されている中ではありますが、地域での活動を継続しています。

令和4年(2022年)1月21日に第7回きょうと地域リハビリテーションフォーラム「新型コロナウイルス感染拡大下における地域リハビリテーションの役割」をWEBで開催しました。新型コロナウイルス感染の拡大、対策が続く中、リハビリテーションの現場がどのようになっているのか、どのような問題点があるのか、地域リハビリテーションをどのように進めていくべきなのか、このような点について議論の場が必要と考え、コロナ禍と地域リハビリテーションに焦点をあてた内容となりました。京都府立医科大学大学院研究科リハビリテーション医学の沢田光思郎先生に「新型コロナウイルス感染症とリハビリテーション」の内容でご講演いただき、「新型コロナウイルス感染拡大下でもできること・すべきこと～それぞれの立場から見た現状と課題～」と題したシンポジウムを開催し、京都府下から多様な立場の方にシンポジストとしてご発言いただきました。

高次脳機能障害支援普及事業については、8月21日に医療関係者等研修会をWEBで開催し、「WAIS-IVから見立てる高次脳機能障害」をテーマに講演を提供し、主要な神経心理検査であるWAIS-IVをどのように高次脳機能障害の臨床に役立てるのかについて専門職を中心に情報提供しました。

研修会はコロナ禍のため全てWEB開催となっています。対面の会と比較して演者と聴衆の距離感が否めないところはありますが、この間、参加者もWEB講演に慣れてきており、何より全国各地からの参加が可能となり悪いことばかりではないと思います。